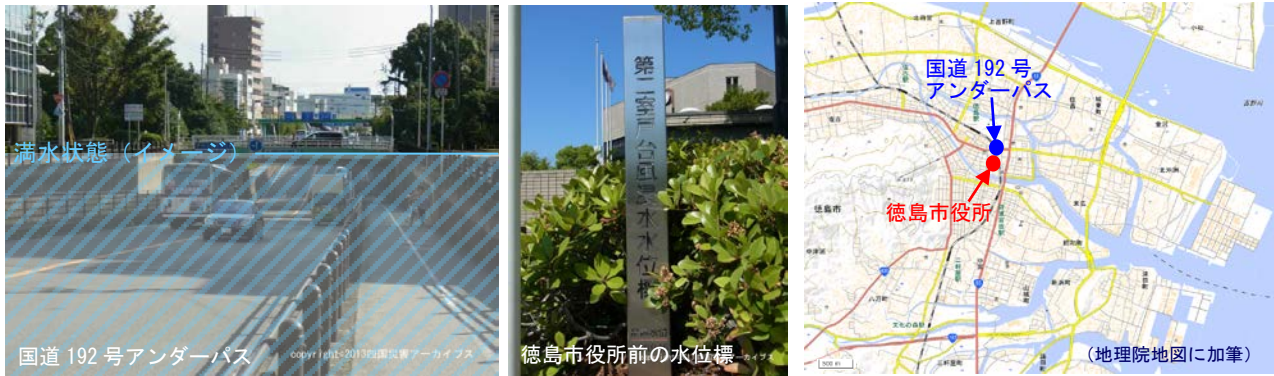


浸水位を示す

高潮や洪水により、普段はそんなところまで水が来るはずはないと思うところまで浸水することがあります。浸水位を表示して人々に知らせることは水害への意識を高めます。徳島県徳島市と高知県土佐市の例をご紹介します。

■徳島市役所前の水位標（徳島県徳島市）

昭和36年（1961）9月16日、第二室戸台風が室戸に上陸した後、徳島県東部を通過して阪神間に抜けました。徳島市では満潮と重なり、高潮被害に見舞われ、被害は全半壊約470戸、床上・床下浸水約35,000戸に及びました。津田地区では低地帯のほとんどが浸水被害を受けましたが、高潮による水面の上昇が早く、昼や家財道具などを持ち上げる間がないほどでした。また、幸町の国道192号アンダーパスは高潮により水没し、満水状態になりました。近くの徳島市役所前に設置されている水位標によると、水位は地面から約93cmの高さに達しています。＜参考資料：徳島市津田コミュニティ協議会・津田公民館編「津田の歴史・史跡めぐり」2012年及び徳島県史編さん委員会編「徳島県史第6巻」1967年＞



■土佐市消防署前の浸水位（高知県土佐市）

昭和50年（1975）8月17日、宿毛市付近に上陸した台風5号は、仁淀川上流を中心に集中豪雨をもたらしました。土佐市では、鳴川・天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊、用石・高岡市街地・家俊付近の浸水などにより、被害は死者6人、負傷者74人、家屋全壊26戸、家屋半壊72戸、床上浸水2,255戸、床下浸水2,100戸などに及びました。用石堤防が100mにわたって決壊したため、急激な増水で家財道具などを持ち出す間もなく、中には二階にまで浸水した家さえありました。高岡では市民病院、老人ホームも浸水しました。土佐市消防署前の防災記念碑には、この時の浸水位（地面から約66cmの高さ）が刻まれています。＜参考資料：土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978年など＞

